

米国の核性能実験に抗議する決議

核兵器の廃絶は、最初の被爆国である日本をはじめ、今や全世界の人類共通の願いとなっている。

しかしながら、このたび、米国政府がニューメキシコ州サンディア国立研究所において、本年9月4日と10月3日の2回、Zマシンを使用した核性能実験を実施していたとの報に接したところである。

平和都市宣言を行った札幌市において、本市議会は、これまでも核保有国が核性能実験、臨界前核実験及び地下核実験を実施した際に抗議の決議を行ってきた。また、米国政府に対しても、再三にわたって核性能実験や臨界前核実験の停止を求める決議を行い、これを送付してきた。それにもかかわらず、今回、再び核性能実験を強行したことは、極めて遺憾である。

このように核実験を繰り返すことは、「核兵器のない世界」を目指す国際情勢の流れに逆行し、核兵器廃絶と恒久平和を願う世界の人々の期待を裏切るものである。

よって、本市議会は、米国政府に対し、核性能実験の強行にあらためて抗議するとともに、核兵器廃絶と核実験中止を求める国際世論を真摯に受け止め、今後、いかなる核実験も恒久的に行わないよう強く求めるものである。

以上につき、決議する。

平成26年（2014年）11月27日

札幌市議会

（提出先）アメリカ合衆国バラク・オバマ大統領

（提出者）自民党・市民会議、民主党・市民連合、公明党、日本共産党、

市民ネットワーク北海道及び改革所属議員全員並びに

みんなの党木村彰男議員